

山・川・海の絆再生による「みえのうみ」魅力創出事業 「アサリ資源自主管理促進普及事業」(抄録)

水野 知巳・宮本 敦史 (津地方県民局水産室)

目 的

伊勢湾内におけるアサリは重要漁業資源であるが、1995年頃からその漁獲量は減少傾向が見られる。本事業では漁業者が自主的に行うアサリの資源管理を鈴鹿水産研究室と津水産室が支援し、最終的には容易にアサリの資源状況を把握して効果的な資源管理手法を選択、実施できるようなアサリ資源管理マニュアルを作成する。

方 法

明和町地先の大淀漁協占有漁場をモデル漁場として10測点を設定し、年3回、アサリ及び外敵生物の分布調査を漁業者と共に行った。さらに生息環境調査として底質粒径を調べた。

結果と考察

調査海域とした大淀漁協地先の占有漁場では、17年7月、9月、18年3月の3回の調査でアサリ稚貝、成貝

ともほとんど確認できず、平成16年夏季から秋季にかけての台風による攪乱以後、アサリ漁場が形成されていないことが明らかになった。一方で、ツメタガイやアカニシなどの食害生物やホトトギスガイ等の餌料競合生物が確認されたため、桁網によるタマガイ類の除去を行った後、17年10月に稚貝放流を行ったものの、18年3月時の調査ではアサリ密度の増加は確認できなかった。

今後は、16年と17年度に水産基盤調査において採集を継続してきた下御糸地先まで調査範囲を拡大し、下御糸地先の高密度分布域と至近距離にも関わらず、大淀地先で稚貝の着底、生残状況が全く異なる要因、特に砂面変動や流動等の物理的な要因を把握する必要があると考えられた。

関連報文

三重県科学技術振興センター 水産研究部 鈴鹿水産研究室；平成17年度 山・川・海の絆再生による「みえのうみ」魅力創出事業報告書。